

追 悼 前理事 副会長 石 原 善 雄 君

本会前理事副会長 石原善雄君は、昭和 45 年 3 月 6 日午前 10 時、病氣療養中のところ東京・石原医院にて逝去せられました。ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。



経 歴

故人は一高を経て、大正 9 年東大工学部鉄冶金科を卒業直ちに日本特殊鋼合資会社に入社、当時高級特殊鋼製造の唯一の方法であるるつぼ溶解を担当されたのをはじめ電気炉製鋼法の研究に腐心され、わが国初の高周波電気炉の新設に参画、高級特殊鋼製造に画期的基盤を築かれるとともに、特殊鋼の製造ならびに研究開発に邁進され昭和 14 年取締役就任、39 年日本特殊鋼(株)常務取締役を退任されるまで会社運営にも関与され、今日の同社の礎を築かれました。この間、多忙な会社業務のかたわら数多くの公職に携わられましたが、特に本会事業の推進には情熱を注がれ、副会長を含め理事に 4 たび就任されたほか、長年にわたり編集委員、初代の特殊鋼部会長を歴任、さらに本会刊行の「鋼の熱処理とその作業標準」(本書は「鋼の熱処理改訂 5 版」に引継れている)ならびに「鉄鋼便覧」の編集に委員長あるいは委員として当たられるなどの業績を残されています。また日本工業標準調査会委員として標準化事業の推進にも尽力されました。

日本特殊鋼(株)を退社後は千葉工業大学講師として後進の指導にも当たられ、わが国鉄鋼界の発展に半世紀にわたり多大の貢献をされました。このような功績に対し、昭和 39 年に藍綬褒章を受章、本会よりは昭和 19 年に「航空機用特殊鋼製造技術の進歩発達」への貢献で渡辺三郎賞、昭和 20 年に「協会事業功労賞」を受賞されています。

弔 辞

本会評議員、前副会長 石原善雄君の逝去の報に接し哀悼の念にたえずつつしんで霊前に弔辞を呈します。

君は早くから編集委員として会誌「鉄と鋼」の編集に当たられたのを初め昭和 19 年から通算 4 回にわたり理事に就任され、さらに監事に 2 回就任して協会事業の発展に尽くされましたが、特に昭和 33 年から 2 年間は副会長として事業の推進に努力を傾注されました。

ご専門とされる特殊鋼の分野では昭和 23 年本協会に戦後初めて特殊鋼部会が設置されると同時に特殊鋼部会長に就任され、40 年まで実に 17 年間の長きにわたり同部会長としてわが国特殊鋼製造技術の発展に多大の貢献をされました。

また、日本工業標準調査会委員として標準化事業に尽力され最近では当協会標準化委員会工具鋼材原案分科会の主査として工業標準原案の作成に当たられ、ご入院中もその審議状況をたえず心にかけておられたと聞いております。

このように数 10 年にわたって本協会の事業発展に尽くされたご功績に対し、協会事業功労賞を、また航空機用特殊鋼製造技術の進歩発達へのご貢献に対し渡辺三郎賞を受けておられます。

本協会の活動は鉄鋼業の発展とともに活発となつておりますが、君のご指導ご協力を一層必要としております時期に突然の訃報を聞き悲しみにたえずつつしんで哀悼の誠をささげます。

昭和 45 年 3 月 10 日

社団法人日本鉄鋼協会会長 藤 本 一 郎